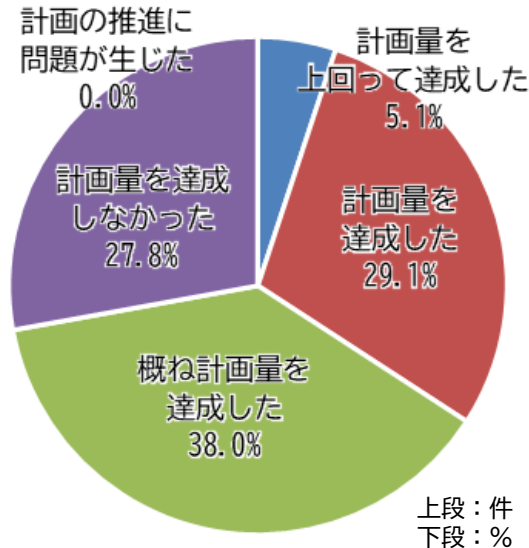


尾道市総合計画後期基本計画の総括 《概要版》

尾道市総合計画後期基本計画の総括

【達成度を測る指標による評価】

- 計画には「施策の目標に対応した代表指標」と「施策に対応した指標」を合わせて、135件（政策目標の中での再掲除く：以降同じ）の指標を掲げていた。
- このうち、モニタリングに用いる指標を除いた79件についてみると、概ね計画量を達成した施策は72.2%、達成しなかった施策は27.8%となっている。
- 達成した施策のうち、計画量を上回った5.1%については、物価高、コロナ禍の収束、SNSの活用などが主な要因である。
- 計画の推進に問題が生じた施策はなかった。



※ 「概ね計画量を達成した施策」 = 「計画量を上回って達成した」と「計画量を達成した」と「概ね計画量を達成した」の合計（以下同じ）

政策目標	指標数	計画量を上回って達成した	計画量を達成した	概ね計画量を達成した	計画量を達成しなかった	計画の推進に問題が生じた	評価対象計	推移のモニタリングに留める(評価対象外)
政策目標1：活力ある産業が育つまち	24	0 (0.0)	5 (38.5)	5 (38.5)	3 (23.1)	0 (0.0)	13 (100.0)	11 (一)
政策目標2：活発な交流と賑わいのあるまち	16	1 (16.7)	2 (33.3)	1 (16.7)	2 (33.3)	0 (0.0)	6 (100.0)	10 (一)
政策目標3：心豊かな人材を育むまち	21	2 (11.8)	1 (5.9)	9 (52.9)	5 (29.4)	0 (0.0)	17 (100.0)	4 (一)
政策目標4：人と地域が支え合うまち	14	1 (10.0)	1 (10.0)	4 (40.0)	4 (40.0)	0 (0.0)	10 (100.0)	4 (一)
政策目標5：市民生活を守る安全のまち	34	0 (0.0)	7 (50.0)	5 (35.7)	2 (14.3)	0 (0.0)	14 (100.0)	20 (一)
政策目標6：安心な暮らしのあるまち	26	0 (0.0)	7 (36.8)	6 (31.6)	6 (31.6)	0 (0.0)	19 (100.0)	7 (一)
合計	135	4 (5.1)	23 (29.1)	30 (38.0)	22 (27.8)	0 (0.0)	79 (100.0)	56 (一)

【産業】

施策目標1：地域経済を支える産業に活気がある

- ・ 海事産業については、「海事都市尾道」を国内外にPRするため、関係機関と連携し、様々な啓発活動を実施するとともに、次世代人材育成、技能継承のため、因島技術センター支援事業を継続して実施した。
- ・ 国の地方創生臨時交付金を活用し、原材料価格やエネルギー価格の高騰に影響を受ける市内事業者のLPガス使用料やLED設備への切替えに対する補助制度を設け、事業継続を支援した。
- ・ 労働力不足へ対応するため、引き続き、デジタル技術の活用促進や、多様な人材確保につながる施策に取り組む必要がある。

施策目標2：多様な産業が育っている

- ・ 御調町の民間遊休地を活用し、電子機器製造販売の市外企業が新たに工場立地することが決定し、令和8年秋から工場が稼働する予定となっている。
- ・ 産業用地調査を実施したが、本市の地形的な特徴から、平坦な土地が少なく、造成コストが割高となるため、新たな産業団地整備の候補地となる場所を選定できていない。

施策目標3：農林水産業が活性化している

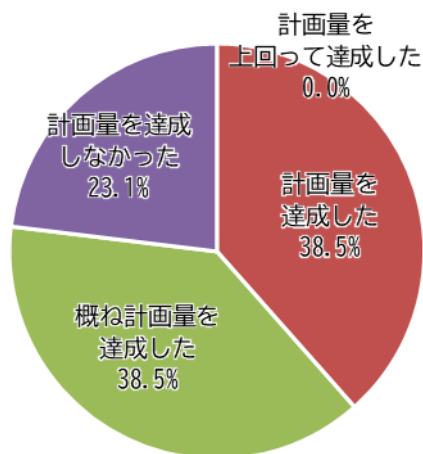
- ・ 農業においては、機械化やスマート農業技術の導入などにより生産性が向上している。尾道ブランド農産物認証制度による高付加価値化の推進により農産物の単価の向上に繋がった。
- ・ 漁業においては、近年、アコウ等の特定魚種について効果的な手法での放流により一定の漁獲量を維持しており、毎年開催するイベントなどにより認知度が高まっている。

施策目標4：産業の担い手が育っている

- ・ 就業フェアにおいては、令和5年度からハイブリット形式でセミナーを開催することで、参加者の増加に繋がった。
- ・ 事業承継に関する相談会を実施しているが、事業承継の必要性を感じていない場合や、経営悪化を懸念した早めの廃業等により、相談に繋がる事のないまま廃業することが多く、事業承継の課題が見えていない。

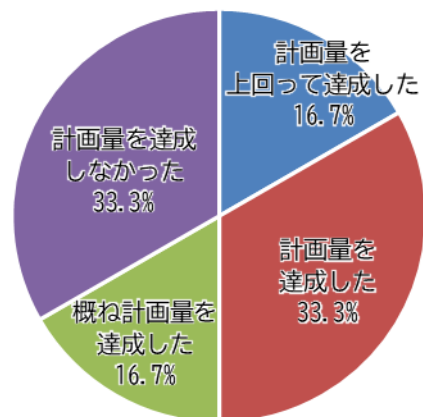
施策目標5：誰もが働きやすい雇用環境が整っている

- ・ 中学・高校のキャリア教育をすすめる学校が増え、「おのはた」の活用事例が広がり、増刷を希望するところが多かった。
- ・ 企業合同説明会は、新卒予定者の参加が少なく、企業側は求める人材の確保に苦慮している。



【達成度を測る指標による評価】

- ・ 施策の目標に対応した代表指標と施策に対応した指標を合わせて、24件の指標を掲げていた。
- ・ このうち、モニタリングに用いる指標を除いた13件についてみると、概ね計画量を達成した施策は10件、達成しなかった施策は3件となっている。



【達成度を測る指標による評価】

- 施策の目標に対応した代表指標と施策に対応した指標を合わせて、16件の指標を掲げていた。
- このうち、モニタリングに用いる指標を除いた6件についてみると、概ね計画量を達成した施策は4件、達成しなかった施策は2件となっている。

【観光・交流】

施策目標1：観光消費が増えている

- サイクリングをキラーコンテンツとするしまなみジャパンの取組や観光施設のリニューアル等により、増加を続ける訪日外国人旅行者を取りこぼすことなく、本市のインバウンド観光の振興を図ることができた。
- 日本遺産の活用やフィルムコミッション事業、サイクリングしまなみの開催などにより、本市ブランド力の維持向上を図った。
- 観光庁の補助事業を活用した宿泊施設の整備が進んだことなどから、滞在時間の増加につながった。

施策目標2：国内外との交流が活発に行われている

- 尾道商業会議所記念館広場の設備（トイレ・芝生・ミスト噴水・ウッドデッキ等）を充実させた結果、広場の利用が活発になり、まちなかの賑わい創出につながった。
- 春期・夏期海外語学研修の参加者数が、令和5年度から令和7年度にかけて増加した。
- 日本語教室など各種国際交流活動への助成を行うとともに、在住外国人への情報提供に努め、外国人と市民との交流を推進した。
- 全国的にも3か所の「みなとオアシス」の登録がある自治体はないが、相互の連携が取れていない。

【景観】

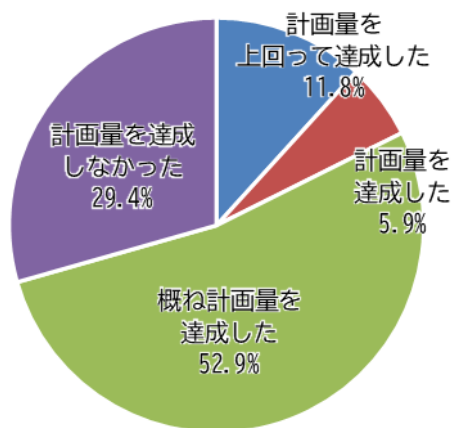
施策目標1：景観が保全・整備されている

- 尾道駅周辺の市街地や瀬戸田しおまち商店街を中心に、行政及び民間による歴史的建造物や空き家を活用した施設整備により、観光地としての魅力向上と賑わいの創出を図っている。
- 太陽光発電施設（地上設置型）や新たな技術を活用した屋外広告物の立地など、景観に影響を及ぼす社会環境の変化が見られる。

【移住・定住】

施策目標1：移住・定住の取組が活発に行われている

- 「移住定住コンシェルジュ」を中心としたメールやオンライン会議システムでの相談対応をはじめ、土日や祝日の対応や現地案内、ネットワークの拡充による関係機関への紹介等、多様な形での対応が可能となり、柔軟で細やかな相談体制の形成により相談者の増加につながった。
- SNSやホームページ等各種媒体で情報発信を行ったが、尾道ブランドサイトにおいて情報集約ができておらず、中心となる当サイトのページビュー数に繋げることができていない。



【達成度を測る指標による評価】

- 施策の目標に対応した代表指標と施策に対応した指標を合わせて、21件の指標を掲げていた。
- このうち、モニタリングに用いる指標を除いた17件についてみると、概ね計画量を達成した施策は12件、達成しなかった施策は5件となっている。

【歴史・文化・芸術】

施策目標1：歴史・文化・芸術が継承され、活かされている

- 市内の一部の小学校において、囲碁の体験授業が開かれるなど、囲碁が生涯楽しめる競技として認知されている。
- 登録文化財登録数が目標値を達成し、継続的に増加している。
- 人気企画であった夏休み時期に開催していた「子ども学芸員の旅」が、コロナ禍を機に中止となっており、また近年の夏の猛暑を考慮すると今後の開催も困難である。
- 文化団体の構成員の高齢化、指導者不足が顕著であり、文化活動の衰退、伝統文化が次世代へ継承されないことが懸念される。

【学校教育】

施策目標1：夢と志を抱き、グローバル社会を生き抜く人材が育っている

- 各校の取組を研修会やタブレット内のクラスルームで共有し合うことを通じて、授業改善に取り組んだ。学校再編の対象となる学校を除く全ての学校が授業公開を行い、教育研究が学校の組織文化となっている。
- 体力向上に関する研修会を実施したが、各校の先生方の参加が難しく、研修での学びを市内全体に広げることができなかった。また、体力の低下傾向が続いていることも課題である。
- 児童生徒数の減少により、学校が小規模化していくことが予想される。今後、教育環境の充実のため、学校の在り方を検討していく必要がある。

施策目標2：学校施設が整備されている

- 新しい因島学校給食共同調理場が完成し、令和7年4月から稼働できたことで、因島地域の中学校2校の全員給食を開始できた。
- 中学校の技術室・家庭科室など、一部の特別教室では空調整備が未完了である。
- 夏季の体育授業や部活動といった教育活動の維持及び災害時における避難所の環境確保のため、屋内運動場への空調整備が喫緊の課題である。

【生涯学習】

施策目標1：いつでも学べる環境が整っている

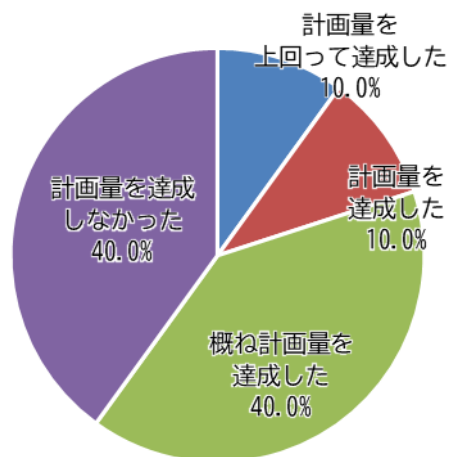
- 市民課題でもある防災について、毎年違う形でアプローチして多様な市民に訴求し、好評を得ている。
- 公民館内にWi-Fi周辺機器を設置し、遠隔からの講座や複数館での視聴を可能とした。また避難所としての機能も持っているため、災害時にも役立つものとなっている。
- 生涯学習施設の多くが老朽化等により、毎年相当のメンテナンスが必要となっている。利用者の多様な要望に応えきれていないところがある。
- オンラインシステムも普及、充実してきた。対面のよさはあるが、様々な層のニーズに対応するためにはオンラインによる開催、オンラインと対面を組み合わせた開催等、方法や時間帯等、再度検討していく必要がある。

施策目標2：学校・家庭・地域の連携により子どもたちが健やかに成長している

- 中学校での学習支援を放課後子ども教室の枠組みで実施しており、国・県の補助メニューにのせることができ、単年や時限付ではなく計画的に運用できている。
- 市の出前講座に位置付けているグループワークである「親の力をまなびあう学習プログラム」や家庭教育講座において、子育てサロンや保育所等の減少により、実施の場が少なくなっている。
- 放課後子ども教室の指導員が高齢化等により減少していることにより、従来通りの実施が困難となっている教室がある。

施策目標3：スポーツを楽しんでいる

- SNS等での情報発信、体験イベントの実施、海の安全安心事業・環境配慮事業等を実施し、マリンスポーツ普及の土台を築けた。
- スポーツタウン尾道の実現を目指して、御調地域には御調ソフトボール球場への電光掲示板・観客席等の整備、因島地域には因島運動公園多目的競技場の天然芝生化、瀬戸田地域には生口市民スポーツ広場グラウンドの天然芝生化及び体育館の整備、旧尾道地域には東尾道多目的競技場の人工芝生化を実施することで、地域の個性を生かした均衡ある発展に取り組んできた。
- 運動による健康づくりの充実が、地域や仲間同士のコミュニティの向上となることから、健康寿命の延伸が予想される。
- 健康づくり事業の参加者は高齢期の割合が多く、若年期・壮年期は、健康づくり行動に取り組む時間的余裕がない場合が多いため参加が少なく、健康行動の習慣化が難しい。
- 高齢者向けの運動による健康づくりの取組については、自身の健康状況に影響する 경우가多く、怪我など安全面に一層配慮する必要がある。
- 施設の老朽化による維持管理費の増加への対策が課題である。



【達成度を測る指標による評価】

- 施策の目標に対応した代表指標と施策に対応した指標を合わせて、14件の指標を掲げていた。
- このうち、モニタリングに用いる指標を除いた10件についてみると、概ね計画量を達成した施策は6件、達成しなかった施策は4件となっている。

【協働】

施策目標1：協働のまちづくりの意識が定着している

- LINEから各種証明書のオンライン申請・決済、各種申込を可能とした。
- 「会長の便利帳」を作成し、地域の役員等に活用していただくことで地域活動を円滑に進める一助となった。
- オンラインプラットフォームなどの各種媒体を活用した効果的な市政情報の発信や、双方向のコミュニケーションによる市民活動に関する情報の共有によって、新たな課題の解決につなげていく必要がある。

施策目標2：地域でまちづくりを行う仕組みが形成されている

- 地域主催の話し合いの場に専門の講師を派遣することで、地域住民があるべき地域の姿を考え、主体的に解決に向けて取り組むきっかけとなった。
- 集会所整備として、男女共用であったトイレを改修し、男女分別化することで利用者のプライバシーに配慮した施設とすることができた。
- 市民活動支援事業において、市民活動団体から提案された事業について不採択となる事業が一定数あった。
- 人口減少や少子高齢化に伴い、担い手の確保や育成、行事負担など継続的な地域活動が困難となることが想定される。

【人権】

施策目標1：人権が尊重されている

- 学校、地域、職場等の様々な場における人権尊重の理念に対する理解を深めるための効果的な人権啓発を実施することができた。
- 講演会参加者においては参加者の年代に偏りがあり、若い世代の参加者数を増加させることに苦慮している。
- 交流イベントなどの活動に興味を持ち、参加を希望する在住外国人が増えているが、情報の周知や共有に課題がある。

施策目標2：男女がともに認め合い、支え合う社会が実現している

- 社会に根強く残る固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスの解消に向けた取組を継続する。

「政策目標5：市民生活を守る安全のまち」に係る取組の、主な成果と課題①

【生活基盤】

施策目標1：生活基盤が整い市民が安全に暮らしている

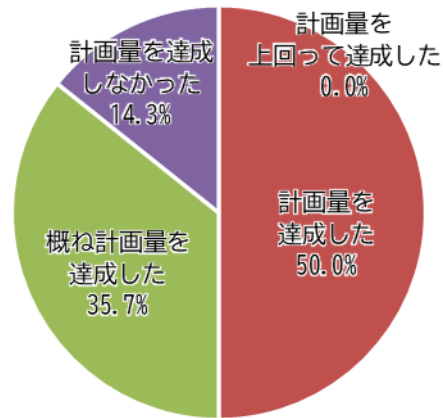
- ・ 新市建設計画に位置付ける道路については、2車線の補助幹線道路から集落内の安全な生活道路の確保として、幅員4mから5mによる整備を行い整備完了となっている。
- ・ 道路、橋梁、公園、緑地等の維持管理費の負担が増大しており、計画的な整備や修繕が行えていない。
- ・ 水道の基幹施設（ポンプ場・配水池）の耐震化の推進により、施設全体の耐震化率が89.3%となった。
- ・ 総合計画等に計画目標を明記することで、整備の進捗率が明確になり、現状分析が容易になった。
- ・ 小型浄化槽の普及には、設置費や維持管理費に対する住民負担感、不公平感、管理意識の格差が問題となり、補助制度の充実や、設置後の適正維持管理支援、市民への周知・合意形成が必要となる。
- ・ 令和6年度には、近年低下傾向にあった資源化率の改善が見られた。一方で、各施設の老朽化が進んでいるため、施設整備を含めた将来のごみ・し尿の適正処理体制を検討する時期が来ている。
- ・ コンビニ交付サービスが認知され、対象の証明書等のコンビニ交付での取得割合が全体の20%を超えている。利用者の利便性の向上、窓口の混雑緩和につながった。

施策目標2：利用しやすい生活交通が確保されている

- ・ 路線バスの廃止に伴い導入したみつき乗合タクシーについて、令和5年に運行内容の一部を改善し、A I配車予約システムを導入することで、利便性の向上と効率的な運行に努め、利用者の増加に繋がった。
- ・ 公共交通マップについては、マップ自体の在り方を含め検討はしたものの、情報が更新できず、路線や乗り継ぎに関する情報発信の分野では課題が残っている。
- ・ 慢性的な運転士不足の中、現在の従事者が高齢化することに伴い、交通事業者における人材不足が深刻化する恐れがある。

施策目標3：良好な住環境が整っている

- ・ 危険な空き家等の除却補助を行った。
- ・ 空き家バンク制度対象地域の拡大とともに、子育て世帯等の中古住宅取得の補助による空家等の利活用を促した。
- ・ 物価や人件費の高騰により、当初予定していた市営住宅長寿命化計画どおりに改修工事を実施することが難しい。
- ・ 耐震シェルターの設置については、頑丈なシェルターが生存空間を確保する一方で、建物自体が倒壊する可能性は残るため、申請につながらない状況があった。
- ・ 社会情勢の変化に伴い、適正に管理されていない空家等の増加が見込まれるため、啓発による発生抑制や利活用または除却の促進をする必要がある。



【達成度を測る指標による評価】

- ・ 施策の目標に対応した代表指標と施策に対応した指標を合わせて、34件の指標を掲げていた。
- ・ このうち、モニタリングに用いる指標を除いた14件についてみると、概ね計画量を達成した施策は12件、達成しなかった施策は2件となっている。

【防災・防犯・交通安全】

施策目標1：防災・防犯・交通安全体制が充実している

- ・ 全市一斉防災訓練において、地域が主体となった訓練の運営が定着し、参加人数も増加傾向にある。
- ・ 広報媒体での周知や防災訓練・出前講座等の機会を捉えた広報により、防災アプリのダウンロード数が増加した。 R3.5 (4,470件) → R7.3 (16,897件)
- ・ 消費者教育講座として、尾道市内の高等学校での若者向けの講座、民生委員を対象に高齢者を見守る人向けの講座、保護者を対象に若者を見守る人向けの講座を行った。
- ・ 自主防災組織の役員が、高齢化により継続的な運営が困難になりつつある。
- ・ 消費者トラブルや消費者被害の内容も多様化・複雑化し、巧妙な手口が増え、相談を受ける相談員のスキルアップ及び相談員の育成確保が求められる。

【消防】

施策目標1：消防体制が充実している

- ・ はしご車の更新において、従来のはしご車より小スペースで活動することが可能であり、ポンプ機能及びタンク機能を有するブーム付多目的消防ポンプ自動車を整備した。
- ・ 令和4年度に新耐震基準を満たしていない消防団器具庫は26棟あったが、令和7年度に6棟となり、令和9年度には0棟となる見込みである。
- ・ 老朽化する施設・設備・消防車両等の計画的な更新及び維持管理を行う必要がある。
- ・ 少子高齢化及び人口減少に伴う消防団員の担い手不足を解消する必要がある。

【環境】

施策目標1：環境が保全されている

- ・ 環境学習（海辺教室、里山教室等）やアマモの種まきセミナー、海ごみを活用した万華鏡づくりなど、幅広い世代への環境啓発活動を通じて、環境への意識や関心を高めることができた。
- ・ 森林での作業体験や森林・林業について学習する機会の提供、木育への取組など、普及啓発を推進し、森林保全意識の醸成に寄与した。

【子育て】

施策目標1：安心して子どもを産み育てられる環境が整備されている

- 結婚を希望する人への支援、保育料第2子以降無償化等の経済的負担の軽減、産後ケア事業拡充による産前・産後サポートの実施やぽかぽか★おむつ定期便等の訪問支援事業の充実、向島リーフ開設による子ども第三の居場所の拡充、まちかどフードパントリー開設等による子どもの貧困対策や放課後児童クラブ開設時間の延長などの取組を進め、より子育てしやすい環境が整った。
- 本市ホームページ内に子育て支援専用のウェブサイトを開設し、保護者等が必要な情報を取得できるように、子育て支援に関する情報を一か所に集約し、さらに、本市の子育て推し一覧「ぶちすげえ!!尾道 推しの子育て」ページ作成による事業PRも含めた情報発信を実施した。
- 社会的支援の必要性が高い子どもやその家族への支援、妊娠期から青年期等の相談体制に加え、良好な成育環境の確保や貧困の格差解消に関する関係機関の連携による相談体制の充実を、引き続き進める必要がある。

【健康・福祉・医療・介護】

施策目標1：健康寿命が延びている

- AIを活用した受診勧奨通知や地域や状況に応じた受診勧奨等により、特定健診受診率は上昇傾向にある。
- 特定健診受診率は徐々に上昇しているものの、目標値には達していない。
- 歯周疾患検診について、対象者への個別通知や広報等による受診啓発に努めたが受診率が低下している。
- 地域での健康づくりを担う保健推進員等の高齢化や、担い手不足により、今後推進員不在の地域も増えてくる可能性があるため、事業や組織の再構築が必要になってくる。

施策目標2：高齢者や障害のある人が健康で安心して暮らしている

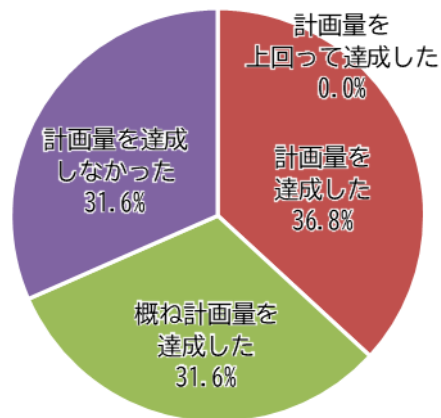
- 令和5年度から、認知症カフェの取組を拡充する等で、認知症にやさしいまちづくりの一環となる「チームオレンジ」の取組を開始した。
- 令和6・7年度に、高齢者等の介護を身近に感じるイベント「かいごとそばに。」を開催した。
- 権利擁護分野における支援は、依然として携わる専門職、個々の組織・個による対応に留まる。

施策目標3：生活に課題を抱える人の支援体制が充実している

- おのまる会議の中で、研修交流会等を圏域単位で実施することにより、関係機関や支援者の顔の見える化を図った。
- 生活に課題を抱える人や子どもが、地域の中でひきこもりの状況にある場合も多く、何らかの課題が発生しないと把握が困難な状況にある。

施策目標4：医療体制が充実している

- 限られた財源の中で、必要性を慎重に検討した上で医療機器等の導入・更新を実施し、診療および検査の精度向上を図った。



【達成度を測る指標による評価】

- 施策の目標に対応した代表指標と施策に対応した指標を合わせて、26件の指標を掲げていた。
- このうち、モニタリングに用いる指標を除いた19件についてみると、概ね計画量を達成した施策は13件、達成しなかった施策は6件となっている。